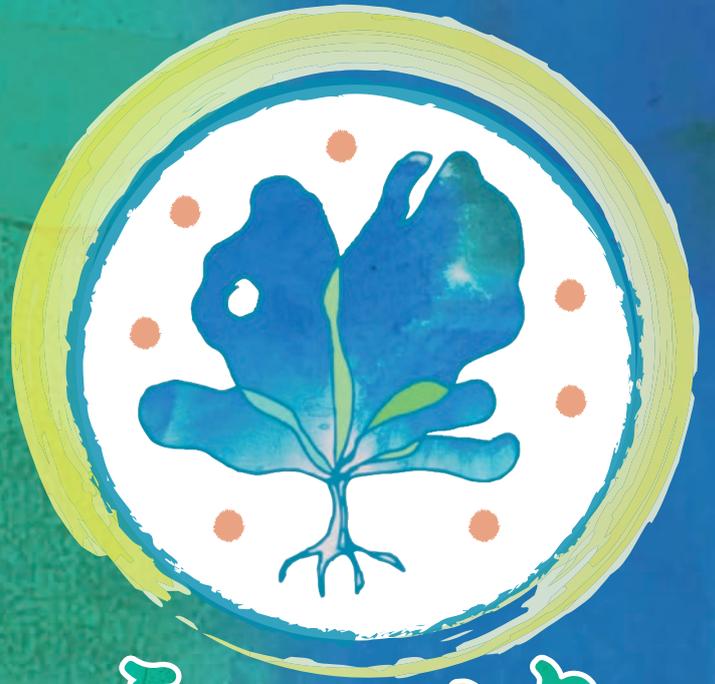


Art Brut



うみのもり



「令和3年度 千葉県障害者芸術文化活動支援事業」報告書
千葉アール・ブリュットセンター うみのもり

「うみのもり」のゆらい

海のなかにも森があります。海藻でできた森です。
「藻場」と呼ばれるその森は、
時には隠れ家として、時には遊び場として、また時には
産卵の場所として、魚、ウミガメ、エビやカニなどの
多種多様な生きものを養い、
かつ海そのものの水質をも浄化する、
生態系の中で非常に重要な場所です。
今回、お話を頂いた時、
私の頭に浮かんだのはそんな「藻場」のイメージでした。
ここがあなたの「うみのもり」でありますように。

詩人 大島健夫

index

厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業について

支援センターのなりたち

P1

千葉県障害者芸術文化活動支援センター「うみのもり」の紹介

うみのもり活動内容

P2

令和3年度 うみのもり事業報告

その1 / 人材育成講座

P3

その2 / 相談業務

P12

その3 / ネットワークづくり

P14

その4 / 発表等の機会の創出

P15

その5 / 情報収集・発信

P23

その6 / 今後の展望

P25

評議員からのお言葉

P26

厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業について

障害者芸術文化活動普及支援事業は、障害のある人が芸術文化にふれ、楽しみ、深めることができる社会づくりを推進する中間支援事業です。

支援センターのなりたち

2014(平成26)年度から3年間を通じて全国12カ所で行った「障害者の芸術活動支援モデル事業」の成果やノウハウをもとに2017(平成29)年度から実施しています。

本事業では、「都道府県」、「ブロック」、「全国」という3つの活動エリアを設け、2021(令和3)年度はそれぞれのエリアに支援センター(37都道府県)、広域センター(7ブロック)、連携事務局(2カ所)といった支援の拠点を設置しています。

全国の障害者芸術文化活動普及支援事業

厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業として千葉県では、障害のある人の芸術文化活動の振興を図るとともに、自立と社会参加を促進することを目的として、2019(令和元)年より千葉県障害者芸術文化活動支援センターを設置しています。センター実施団体は、プロポーザル方式により、令和3年度は株式会社いろだまに決定し、様々な支援事業を行いました。

2021(令和3)年度 実施都道府県

北海道・北東北 ブロック	広域センター：北海道に設置 対象エリア：青森県・岩手県
南東北・北関東 ブロック	広域センター：宮城県に設置 対象エリア：宮城県・山形県・福島県・栃木県
南関東・甲信 ブロック	広域センター：埼玉県に設置 対象エリア：埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・山梨県
東海・北陸 ブロック	広域センター：新潟県に設置 対象エリア：新潟県・富山県・石川県・福井県・岐阜県・静岡県・愛知県・三重県
近畿 ブロック	広域センター：奈良県に設置 対象エリア：滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・和歌山県
中国・四国 ブロック	広域センター：高知県に設置 対象エリア：鳥取県・島根県・広島県・徳島県・香川県・愛媛県・高知県
九州 ブロック	広域センター：福岡県に設置 対象エリア：福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県
全国	連携事務局

厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業 サイト(<https://arts.mhlw.go.jp>) より 引用

都道府県における活動支援

芸術文化活動を行う障害者本人やその家族、障害福祉サービス事業所、文化施設、支援団体等(以下「事業所等」)を支援する拠点「障害者芸術文化活動支援センター」(以下「支援センター」)を都道府県が設置します。事業の実施は、都道府県または都道府県が認めた団体が行い、主に以下の事業に取り組みます。

- ア．都道府県内における事業所等に対する相談支援
- イ．芸術文化活動を支援する人材の育成等
- ウ．関係者のネットワークづくり
- エ．発表の機会の確保
- オ．情報収集・発信

千葉県障害者芸術文化活動支援センター 「うみのもり」の紹介

文化や芸術は障害のある子どもや大人の「福祉」や「教育」のためだけではなく、多様性と活力に満ちた地域共生社会の実現を目指しています。多種多様な生き物を養い、且つうみそのものの水質をも浄化する藻場。【うみのもり】は、そんな藻場のような場所でありたいと考えます。【うみのもり】は様々な表現方法や芸術をサポートしながら、芸術文化活動を支援する人の技術者習得の場の確保や表現者の様々な体験の機会を提案し、展示会などの機会を設けていきます。

実施団体の【株式会社いろだま】は、1998年より「たまあーと創作工房」としてアートと人との学びの場を作り教育と福祉にまつわるアートの活動をしてきています。アートが担う社会的役割を追求し続けています。



千葉アール・ブリュットセンター うみのもり

〒299-4301 千葉県長生郡一宮町一宮2553-8 株式会社いろだま内
TEL 0475-36-7411 FAX 0475-42-6138
MAIL uminomrichiba@gmail.com WEB <https://uminomori.net>
(2022年5月より)



WEB サイト



FB ページ

令和3年度 うみのもり事業報告

① 人材育成講座の実施

令和3年度の運営を振り返って

令和3年度の人材育成講座は、新型コロナウイルス感染症によって7講座全てがオンライン上での実施となった。令和2年度と違いオンラインでの実施は、参加者も慣れてきたがオンラインの便利さと限界を感じる1年となった。

★第1回講座／2021年7月22日

障害者への理解を深める障害特性の理解・障害者芸術文化の意義とは
／西村陽平氏・高本涼子氏・野澤和弘氏・竹嶋信洋氏 オンライン座談会 【参加者52名】

★第2回講座／2021年9月5日

美術分野の基礎・応用研修・ワークショップ／西村陽平氏 【参加者26名】

★第3回講座／2021年10月24日

舞台芸術分野の基礎・応用研修・ワークショップ／オクダサトシ氏 【参加者6名】

★第4回講座／2021年11月7日

映像制作の基礎・応用研修・ワークショップ／オクダサトシ氏 【参加者3組】

★第5回講座／2021年12月12日

音楽表現分野の基礎・応用研修・ワークショップ／即興からメール団 【申込数14組】

★第6回講座／2021年1月16日

商品化・デザイン・ブランディングを考え学ぶ基礎・応用研修／サカモトトモコ氏 【参加者11組】

★第7回講座／Youtubeでの予約制限定配信

著作権保護についての研修／後安美紀氏 【申込参加数60人3月24日現在】



※第1・2回講座については、申し込んだが当日参加できなかった人向けに、記録動画を編集したものをYouTubeにて限定公開。その他、「大漁旗舞う！」に関する動画、人材育成講座の成果動画、うみのもりの玉手箱会場風景動画など10種類の動画を作成し公開。
・各回のページビューは以下の通り。(2022年3月30日現在)

①第1回講座／公開期間8月6日～

◎パート1…計60回 ◎パート2…計22回 ◎パート3…計22回 ◎パート4…計26回

②第2回講座／公開期間9月14日～

◎パート1…計15回 ◎パート2…計13回

③大漁旗舞う！募集作品について／公開期間10月10日～ ◎計27回

④大漁旗舞う！使用画材について（画材についての研修）／公開期間10月30日～ ◎計53回

⑤人材育成講座音楽部門／公開期間3月25日～ ◎計26回

⑥人材育成講座身体表現部門／公開期間3月28日～ ◎計7回

⑦人材育成講座映像表現部門／公開期間3月28日～ ◎計3回

⑧身体舞う！応募作品／公開期間3月28日～ ◎計24回

⑨うみのもりの玉手箱（会場風景動画）／公開期間3月21日～ 117回

第1回講座

障害者への理解を深める 障害特性の理解・障害者芸術文化の意義とは

ゲスト：西村 陽平氏・高本 涼子氏・野澤 和弘氏・竹嶋 信洋氏 4名のオンライン座談会
参加者数 52名 動画配信閲覧数 60名

令和3年度 千葉県障害者芸術文化活動支援事業 うみのもり企画 オンライン講座
主催：千葉アール・ブリュットセンターうみのもり / 共催：千葉県

海の日 に 表現の旅に出発しよう
日時：2021年 7月 22日 海の日 (祝)
13:30～15:30

Zoomを使用したオンライン講座
千葉県での障害者の表現活動

～これまで これから～

千葉県の障害者アートを形成してきたキーパーソンにご登壇いただき、オンラインで対話会を行います

ゲスト：

 千葉県のみならず 全国のアールブリュット活動の 先駆けとなり現在も後進を育てている 西村 陽平氏 日本女子大学名誉教授	 千葉市で障害をもつ人の 創作的な活動の支援をしている 高本 涼子氏 社会福祉法人九十九会 まあるい広場施設長
 千葉県の障害者福祉を支え アールブリュット活動を 推進し続けている 野澤 和弘氏 植草学園大学副学長	 千葉市で先駆的な 福祉の活動を進めている 竹嶋 信洋氏 株式会社ベストサポート代表

参加費：無料
定員：先着100名
対象：●千葉県全域・全国の障害サービス提供事業者の方々
障害者の表現活動に興味関心のある方、表現をしてみたい方
●Zoomを使ったオンライン受講が出来る機器環境にある方
(パソコン推奨ですがタブレット、スマホも可)

申し込み方法：申込みフォーム
申し込み期間：6月21日⑧～7月15日⑧
※お申込みいただいた方には、前日21日⑧までにURL、Zoom ID、PWをお送りします

 **申し込みフォーム**

プロフィール

高本 涼子氏

社会福祉法人九十九会 まあるい広場（就労継続支援事業B型）施設長

法人の理念でもある「ひとりひとりが人として尊重され、個性と独自性を十分に発揮できる暮らしの実現」に向けて、日々、知的障害をもつ人たちと関わっている。成人した人たちが、福祉事業所でどのように過ごすかは、その人の人生にとって重要なことの一つである。まあるい広場では、画一的な作業ではなく、ひとりひとりに合った活動を見つけ、作品や製品を通して、社会とつながることを目指している。

野澤 和弘氏

1983年早稲田大学法学部卒業、毎日新聞入社。東京社会部でいじめ、引きこもり、薬害エイズ、児童虐待、障害者虐待などの報道に取り組む。2009年から論説委員（社会保障担当）を11年務め、2019年10月退社。現在は一般社団法人スローコミュニケーション代表、毎日新聞客員編集委員、植草学園大学副学長・教授。

ほかに、厚生労働省社会保障審議会障害者部会委員、内閣府障害者政策委員会委員、東京大学非常勤講師、上智大学非常勤講師など。

主な著書に「スローコミュニケーション」「なんとなくは、生きられない。」「障害者のリアル×東大生のリアル」「条例のある街」「あの夜、君が泣いたわけ」「わかりやすさの本質」など。

竹嶋 信洋氏

株式会社ベストサポート 代表取締役。

社会福祉法人千葉市手をつなぐ育成会にて福祉の基礎を学び、H23年に千葉市若葉区西都賀の地にて独立。事業所運営、相談支援専門員として活動中、H28年4月に西都賀3丁目・4丁目自治会会長を拝命し、「障害のある人もない人も共に暮らす」ことをモットーに活動中。一般社団法人千葉県社会福祉士会事務局次長。一般社団法人スタジオフクシ共同代表理事。社会福祉法人りべるたす理事。

西村 陽平氏 ※次ページ（P5）にて紹介。

第2回講座

美術分野の基礎・応用研修・ワークショップ
手でみる美術鑑賞アメリカの旅

講師：西村 陽平氏 参加者数 26名 動画閲覧数 16名

令和3年度 千葉県障害者芸術文化活動支援事業 うみのもり企画

主催：千葉アール・ブリュットセンターうみのもり / 共催：千葉県



講師：西村 陽平氏

— 人材育成講座 2・美術分野 —



手で見る美術鑑賞 アメリカの旅

1987年、手で見る美術館ギャラリー・トムが、視覚障がい的高校生たちを招待して、アメリカの美術館（メトロポリタン美術館、ニューヨーク近代美術館など）を回りました。このことから、障がいの美術鑑賞について考えます。講義を40分、質疑応答を20分予定しています。

日時：2021年 9月 5日 日 13:30～14:30

参加費：無料 / 定員：先着100名

対象：● 障害者の表現に気持ちを傾けて下さっている全ての方
● Zoomを使ったオンライン受講ができる機器環境にある方
(パソコン推奨ですがタブレット、スマホも可)

申し込み方法：申し込みフォーム <https://forms.gle/nbY2ivr23xXGjQKx8>

申し込み締切：8月29日 日

※お申込みいただいた方には、前日9月4日 日までにURL、Zoom ID、PWをお送りします



9/5 申し込みフォーム

プロフィール

西村 陽平氏

1947年京都市生まれ。東京教育大学芸術学科卒。
千葉県立千葉盲学校で図工を担当、その後日本女子大学児童学科で美術教育を担当した。教育の仕事とともに、美術作家として作品制作を行う。作品は、ビクトリア & アルバート美術館など国内外の美術館に收藏されている。
日本女子大学名誉教授。



第3回講座

舞台芸術分野の基礎・応用研修・ワークショップ

講師：オクダ サトシ氏 参加者6名

第4回講座

映像制作の基礎・応用研修・ワークショップ

講師：オクダ サトシ氏 参加者3名



令和3年度 千葉県障害者芸術文化活動支援事業 うみのもり企画
主催：千葉アール・ブリュットセンターうみのもり / 共催：千葉県



Zoomを使用した
参加者募集
オンライン講座

講師：オクダ サトシ氏 — 人材育成講座 3・舞台芸術分野 —

うごいてとまってなにしよう？

みなさんがいらっしゃるそれぞれの場所で、体を使って「なにか」「いっしょに」「おもしろそうなこと」を発見するワークショップです。日常の動きの中から、別の生き物から、周りにあるものから、ヒントを得たり得なかったり。動いたり寝転がったり。気楽に参加してください。

日時：2021年 10月 24日 ④ 13:00～14:30

参加費：無料 / 定員：先着10名

対象：●全ての方
●Zoomを使ったオンライン受講ができる機器環境にある方
(パソコン推奨ですがタブレット、スマホも可)

申し込み方法：申し込みフォーム <https://forms.gle/s9ipswngiLsWASr9>
申し込み締切：10月17日④

※お申込みいただいた方には、前日10月23日④までにURL、Zoom ID、PWをお送りします
■ご用意していただくものごと = 動ける服装と寝転べる場所



10/24 申込みフォーム

講師：オクダ サトシ氏 — 人材育成講座 4・映像制作 —

うごかしてとってみてなにできる？

デジタルカメラで写真を一枚一枚撮ってコマ撮りアニメーションを作ります。最初から超大作はできません。何か手元にあるものを動かしてみましょ。リモートですので、みなさんそれぞれ自分の場所で撮影していただきます。それを最後に合体！一本の映像作品にします。

日時：2021年 11月 7日 ④ 13:00～15:00

参加費：無料 / 定員：先着10名

対象：●全ての方
●Zoomを使ったオンライン受講ができる機器環境にある方
(パソコン推奨ですがタブレット、スマホも可)

申し込み方法：申し込みフォーム <https://forms.gle/xLoJyqLLgEJCoL6s9>
申し込み締切：10月31日④

※お申込みいただいた方には、前日11月6日④までにURL、Zoom ID、PWをお送りします
■ご用意していただくものごと = 何か小物、デジタルカメラ (スマホでも)、三脚



11/7 申込みフォーム

プロフィール

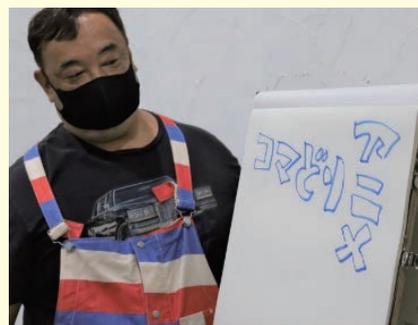
オクダ サトシ氏

踊るように見えない人。映像を作ったり絵を描いたり旅行する人。飛騨生まれ美濃育ち。東京藝術大学美術学部絵画科油画修士課程技法材料研究室修了。在学中よりアートレスラーを名乗りパフォーマンスを始め『新宿少年アート』などに参加。

Dance Company Nomade-s『ABSENT』で初舞台。近藤良平と共演したのをきっかけに1999年コンドルズに参戦。全作品に出演。劇中映像も担当。2016年よりgoen°所属。野田地図『パイパー』、ジェローム・ベル『Gala』、山田洋次監督『家族はつらいよ2』出演。劇団☆新感線などのアートディレクション、TV番組も手がける。

「体を使ってオモロなことを」ワークショップを多数開催。

<http://www.condors.jp/> <http://www.goen-goen.co.jp/>



第5回講座

音楽表現分野の基礎・応用研修・ワークショップ

講師：即興からめーる団さん 申込数 14組

令和3年度 千葉県障害者芸術文化活動支援事業 うみのもり企画
主催：千葉アール・ブリュットセンターうみのもり / 共催：千葉県

参加者募集
オンライン講座

一人材育成講座 5・音楽表現分野

講師：即興からめーる団
(赤羽 美希氏・正木 恵子氏)

多様な人との 音楽づくり・音楽あそび レクチャー&ワークショップ

障害のある方との音楽活動のヒントをお伝えする講座。
前半は、講師による障害のある方との活動事例をワークショップの映像を見ながら紹介します。
後半は、参加者みなさんで楽しみながらうたづくり・音楽あそびに挑戦しましょう。

日時：2021年 12月 12日(日) 13:00~16:00

音楽 WS 実践の講義の後、皆さんからいただいた言葉とリズムから曲を作った。
講座後、作曲家渡邊達弘さんによって編集され【うみのもりの玉手箱】にて発表した。



プロフィール

即興からめーる団 (赤羽 美希氏・正木 恵子氏)

音楽家・赤羽美希と打楽器奏者・正木恵子による音楽ユニット。うたづくり、音あそび、楽器を使った音楽ワークショップを企画・実践するほか、コンサートホールやライブハウス、公共施設、学校等での演奏活動も行っている。うたの住む家プロジェクト主宰。既成概念にとらわれない、自由で面白い作品づくりと、ワークショップに参加した人、その一人一人がいなければ成り立ち得ないような音楽作りを目指している。

第6回講座

商品化・デザイン・ブランディングの研修

講師：サカモト トモコ氏 参加者 11 組

令和3年度 千葉県障害者芸術文化活動支援事業 うみのもり企画

主催：千葉アール・ブリュットセンターうみのもり / 共催：千葉県



一人材育成講座 6 商品化・デザイン・ブランディング

講師：サカモト トモコ氏



デザインができること 「にわのわ」ができるまで

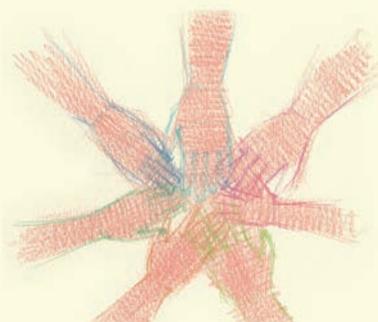
2012年に立ち上げた「にわのわアート&クラフトフェア・チバ」の話を中心に、
イベントを立ち上げていく時のデザインの重要性などをお話していきます。
少人数制のオンラインでの講座となる予定ですので、
参加者のみなさまからいろいろなお質問をいただき、お答えできる時間をつくりたいと思います。

日時：2022年 1月 16日 日 10:30~12:00

[10:30~11:15=講演
11:15~12:00=ディスカッションタイム]

サカモト氏が企画運営してきたアート&クラフトフェアちば「にわのわ」ができるまでのお話からデザインとブランディングについて学んだ。

今後の展開として「にわのわ」と同日の2022年6月4日に福祉事業所参加型のマルシェを企画をした。



プロフィール

サカモト トモコ氏

1967年、千葉市生まれ。女子美術大学産業デザイン科卒業。 広告制作プロダクション勤務後、独立。現在は、コピーライター坂本真司とともに合同会社 Dropout を立ち上げ、デザインをはじめ、イベントの企画などを手がける。

第7回講座

著作権保護についての研修 Youtube での予約制限配信

講師：後安 美紀氏 申込参加数 60 人 (2022年3月22日現在)

令和3年度 千葉県障害者芸術文化活動支援事業 うみのもり企画
主催：千葉県アート・ブリュットセンターうみのもり / 共催：千葉県

公開期間内にご視聴ください
限定動画配信
視聴講座

一人材育成講座 7 著作権保護

著作権保護について

著作権は企業や海外などでできるような遠い世界の話ではなく、身近な、かつ人権にもかかわる大切な問題です。権利や法律について学ぶことは一見難しいことですが、大切なもののように活用・運用するのだと思います。

本動画では、奈良の「たんぼの家」において、障害のある人と表現することを通して、社会とつながる仕組みづくりに取り組むなかで、悩んだり、専門家や周囲に相談したりしながら学んできた、著作権をはじめとする知的財産権にまつわることで大切に思っている基礎的な事柄をお伝えしたいと思います。

講師：後安 美紀氏

プロフィール：生態心理学の知見から、演劇、ダンス、絵画の制作プロセスを観察し、制作者や鑑賞者の行為や知覚を研究してきた。法と心理学、芸術との関わりに関心を寄せる。2017年より、一般財団法人たんぼの家スタッフ。知的財産権を活用しながら障害のある人のアート活動を支えたり、誰もが知財活用できる土壌づくりを目指す「知財学習推進プロジェクト」等に従事。URL: chizai.goodjobcenter.com/ / 主な著書に「演劇と同時多発会話」「アート／表現する身体：アフォーダンスの現場」(佐々木正人編、東京大学出版会) など。

こんな方へおすすめの内容です

- ・大学や専門学校でアートやデザインを学ぶ人に。
- ・知財をテーマにした学校教育や企業研修を考えている人に。
- ・障害のある人の表現を社会に発信していきたい人に。
- ・ファブスペースの運営に携わる人に。
- ・民芸品や伝統工芸品のメーカーではたらく人に。
- ・・・・表現の発信やものづくりにかかわるどんな人にも。

動画公開日時：2022年2月1日～3月31日
視聴費：無料

プロフィール

後安 美紀氏

生態心理学の知見から、演劇、ダンス、絵画の制作プロセスを観察し、制作者や鑑賞者の行為や知覚を研究してきた。法と心理学、芸術との関わりに関心を寄せる。2017年より、一般財団法人たんぼの家スタッフ。知的財産権を活用しながら障害のある人のアート活動を支えたり、誰もが知財活用できる土壌づくりを目指す「知財学習推進プロジェクト」等に従事。URL: chizai.goodjobcenter.com/ / 主な著書に「演劇と同時多発会話」「アート／表現する身体：アフォーダンスの現場」(佐々木正人編、東京大学出版会) など。

受講傾向、意見から察して (令和2年→令和3年の変化)

- 北総地域の事業所・個人の参加に加え外房・内房エリアからの人材育成講座参加も増えた。
- オンラインでの実施ゆえか当事者の参加が少なかった。
→できる限り対面実施をしたい
- 音楽部門の講座は職員参加が多かった。
→事業所で音楽を取り入れたい傾向がある。
- 身体表現・映像表現はオンラインでの実施に限界を感じた。
→参加するかたも難しさを感じているのか、申込みも少ない。
→できる限り対面実施をしたい。
- 相談から画材の技術面のこと、作品の保護のこと、展示に関することが多かった。

人材育成講座 申込者の地域 内訳 (単位 人)

	千葉市	市原市	東葛飾	葛南	印旛	香取	海匠	山武	君津	長生	夷隅	安房
第1回	9	1	3	10	7	0	1	5	1	1	0	1
第2回	1	1	4	3	5	0	0	1	3	1	0	0
第3回	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0
第4回	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0
第5回	1	1	4	0	0	0	0	2	1	1	2	0
第6回	5	0	2	0	2	0	0	0	1	0	0	0
第7回	6	0	2	2	5	1	0	0	0	0	1	0

人材育成講座にてアンケートを実施しました。(一部抜粋して、ご紹介します。)

第1回目 提出率 34.6% (アンケート提出 18/ 申し込み 52 組)

- とても具体的な取り組みが紹介されており大変勉強になりました。
- 高い視座からの多くの気付きを頂いて、大変貴重な機会を頂いた。
- ありがとうございました。多くの方が関わっていること、頼もしく感じました。私にできること、考えていきたいなあと思いました。
- 現状が聞けたので、よかった。
- 表現することの大切さを改めて感じました！
- 障害者芸術のこれまで歩んだ流れは少しわかったような気がしました。これからについては余り意識が出来ませんでした。
- 表現活動と社会を繋げることに重要性や創造性、これからの期待を感じた。
- 障害者福祉の変遷の過程や、現在の価値観の在り方、今後課題とされることなど、障害に対する基本的な概念は、深い学びを得ることができる内容でした。障害福祉には多職種の専門家が関わっていますが「表現」というところに着目して活動を行っている専門家の方たちが展開する障害福祉のお話はとても興味深いものでした。私が勤務する生活介護では、創作活動として「ある程度完成のイメージがあるもの」「商品化できるもの」の作成に取り組んでいます。私は以前から障害者アートと呼ばれる作品に興味がありましたが、今回の講座に参加し、障害のあるないに関わらず自由に表現してよい環境から生まれるものに興味があるのだと強く思いました。
- 野澤氏を話に感銘した
- どのお話も興味深く聞かせて頂きました。「賃金を得ることが自立であるのか」「《教える》ではなく《創作者》として対等にかかわる」「《表現》を使って社会とつながる」...心に刺さる言葉がたくさんありました。
・就労継続支援B型事業所として視覚障害者の方を含め、知的にも重い方を含めて作業を中心に運営してきました。それぞれのハンディを補いながら協働を通して理解し賃金向上に努力してきた結果、働くことによりかなりの成果をあげることができました。しかし、これ以上賃金向上を目指すには負担が大きい人や、障害や高齢化が進んだ人に1日作業をすることよりも、その人らしい過ごし方を大事にする時間を持つために、生活介護との多機能型に移行することを考えています。野澤さんの息子さんの絵に、言葉で表現できない本人の思いを十分感じ取れると言われ感動しました。ある(Being)はする(Doing)に先行しなければならないということを実感し、まあいい広場の砂いじりから今の多彩な活動になっていったことにも感動しました。
- 娘は、30歳知的障害・自閉症の母です。絵を描くこと、音楽が大好きです。転勤族で、落ち着かない小中学期を過ごさせてしまいました。小学生時、見守って親の会が開催していた絵画教室に2年ほど通い、特殊学級の先生も自由に楽しい図工の授業をしてくださり、娘は、のびのびと描いていました。引っ越して、次の学校では、決められた方法で決められた物を描く環境になり、興味を無くしてしまいました。講座をお聞きして、母として、もっと暖かく見守ってやれなかったことを反省していました。
- 野澤先生、西村先生、高本さんと、それぞれの立場からの現場のお話は、ひとつひとつの言葉の実感が胸に響く内容の濃い時間でした。私自身は児童発達支援の事業所で児童指導員を務めています。また、療育に生かそうと臨床美術士の資格も取り、現場で学んでいる最中です。知的障害、発達障害(グレーゾーン含む)と診断されたお子さんたちの日々の療育にあたっています。彼らが将来大人へと成長していく過程で、関わる大人たちは何をを見せてあげることができるのか、ぼんやりとした思いに形をつけたくて今回の講座を受けようと思いました。野澤先生のおっしゃるように、表現することの喜びは、障害のあるなしや老若男女に関わらない万人の喜びであり切望ですね。西村先生の紹介して下さった盲学校の子供たちによる作品群は、力強さとユーモラスな感覚に感銘を受けると同時に、教育の質の高さも感じ入りました。高本さんの活動は、自身の中では最も知りたい内容だったので、大変参考になりました。まあいい広場のような場所がもっと増えていくことが、当事者や周囲の幸福度の質を高めていくような気がします。アート活動を福祉の主軸としているところは、最近気になっている岩手のヘラルポニーさんたちの取り組みとも重なり、この流れはとても興味があります。もちろん全ての人がアーティストを目指すわけではないでしょうが、なにかしら自分というものを表現する手段を獲得することは、人生をより輝かせることになると思います。それが周囲に喜んで受け入れてもらえるなら猶更です。自活の手段としてももちろん、自尊心を育み、生きている喜びを実感できる・・・それが我々が目指す表現活動なのだと思えました。改めて、有意義なお話を聞かせていただきありがとうございました。

第2回目 提出率 38.4% (アンケート提出 10/ 申し込み 26 組)

- 「手で見る」ということで「美術作品」を目で見るというのも、実は固定概念なのだなと思いましたし、新しい鑑賞の仕方を知ったり、開かれた美術館を作られていることを知り、とても勉強になりました。
- 視覚障害者の美術鑑賞を1897年からアメリカで行っていたとは驚きでした。最初は作品に対する情報は伝えずに、まず触れてみる、との話は、なる程なあ...と思いました。
- 作品が劣化してしまうから触ってはならない、という価値観の中で育ったうえ身の回りに視覚が不自由な方がいなかったため、新しい視点を得ることができました。現在働いているところでは表現活動を主にすることがなかなか難しいのですが、少しでも今後の活動に取り入れられたいと思います。美術館にぜひ連れて行きたいです。

第3回目 提出率 66.7% (アンケート提出 4/ 申し込み 6 組)

- 音声聞き取りが難しかった以外はとても楽しく勉強になりました。
- オクダさんとこまちださんおふたりの雰囲気がとてもよくて、最初から緊張しないでふわっと入らせて頂きましたし、たいしたことはしていないのに、「いい～ですね～」と言ってもらえたので、調子に乗れました。他の皆さんもそれぞれまとう雰囲気がおよかったので、ほっとさせて頂けて、とてもありがたかったです。参加される方がもっといらっしゃるかもと思いましたが、表現する、それも身体で、というのは、音楽がかかっている講師の先生の動きを真似るダンス、というのとはちがうものなので、また、動画が先に他のかたにも見られるというのが少し壁になるのかしらと思いました。
- とても楽しかったです。一緒に参加しようと思っていた女子中学生は最初冷めた目で見ていましたが、だんだん楽しさに引き込まれるようになりいろいろアドバイスしてくれました。良い時間だったなあと思います。

第4回目 アンケートの回答なし

第5回目 提出率 57.1% (アンケート提出 8/ 申し込み 14 組)

- 音楽支援の参考にさせていただきます。後半の歌作りは、音楽に素養の無い人間にとってはどう対応して良いものやら戸惑います。VTRにあったように面と向かって行うセッションなのだと思います。機会があればまた参加したいと思います。
- 3時間は長いか、と思っていましたが、あっという間でした。普通の活動に活かせるお話がたくさんあり、さっそく試してみたいと思う内容もありましたので、他の職員と共有したいと思います。オンラインではなく、対面での講座だと参加者の皆さんとの一体感も更にあってもっと楽しかったのだらうと思うと残念ですが、コロナ禍でも開催していただきありがとうございました。
- いろいろ勉強になり、ヒントがあって楽しかった。
- 子どもの立場になって 楽しめました。環境設定や楽器の音色で工夫できることがわかりました。子ども達の特性に合わせたやり方を考えて、沢山の歌や楽器を使って遊びたいと思いました。
- すごくためになる講座でした。初心者の方にもわかりやすい内容でした。ただ、うたづくりには1時間以上かかったのは残念でした。その分、もっと音楽づくりの内容を盛り込んでほしいです。
- とても楽しかったです。千葉は広いと思いました。
- とても斬新で面白かったです。また参加したいです。
- 即興で色々すすめていくお二人に圧倒されました。

第6回目 提出率 36.4% (アンケート提出 4/ 申し込み 11 組)

- 最初に、にわのわプロジェクトの準備から開催に至るまで、企業や市、店舗、専門職、ボランティアなど、いろいろな方面の関わりがあったこと、また、協力いただいた方々への還元に戻すために、入場料をとるといって、一つ工夫された枠組みを試されたことが興味深かったです。ブランディングから一つ一つ考えぬかれた試みを成功に繋げられたこと、とてもすごいと思いました。対象となる方々(それ以外の方も含め)に、まず足を向けていただきやすくなる、千葉の作家さんと触れ合う機会を持つ中で、商品の売買もしやすくなるという場の提供、ゆったりとした雰囲気づくりから客層の広がりまで幅広く繋がっていることで、こういった目的を果たすために、ブランディングやデザインは非常に大きな役割を持つと思いました。今後機会があればイベントを支える枠組みの方に、ボランティアとして参加してみたいと思いました。お話を一通り聞けたこと、大変勉強になりました。ただ、大きな企画の話だったので、今後障害のある方とのイベントを考えた時に、現実的な想像まで進めなかったこともあり、是非、何かのイベント等に参加しながらお話の意味の理解もさらに深めたいなと思いました。最後に、DIC のにわのわの規模では、総勢どのくらいの方がイベントに協力されたのか、おおよその人数や、係に対しての人数も知りたいなと思いました。あとは他の方のご質問と同じでした。
- 大変有意義なお話でした。「なぜ」を中心に置き、それを大切にされていると感じました。だから実現するための準備もブレないし、ポイントが絞り込まれるのですね。だから受け手にもちゃんと伝わりイメージの共有ができ、広がっていく。イメージづくりで大切なポイント ファンを作る。憧れを抱かせることができる。世界観を共有しやすい。これが必要で、そのための準備をする。客観的な視点を常に持つ。時には断る。など、イベントに限らず、様々な場面に活かそうと、大変参考になりました。またこのような機会を設けてくださると嬉しいです。今回は福祉とは違うお仕事の方のお話で、別の視点が得られました。ありがとうございました。
- 「にわのわ」の成り立ちやこだわりを知ることができて興味深かった。
- とても参考になりました。「引き算」の発想は今までなかったもので、何でも詰め込もうと言う思いが強かったことに気づきました。
- とても興味深く拝見させて頂きました。また今後もこのようなセミナーを開催して欲しいです。

以上

② 相談業務（令和3年度の相談実績から）

● 相談件数

電話 15 件(重複含む)、直接 4 件(重複含む)、メール 4 件

人材育成講座当日、チャットやアンケートからの相談・質問合計 52 件(重複含む)

■東京のセンター経由 1 件

■宮城のセンター経由 1 件

<内容>

- ・技術的な質問
- ・制作場所の紹介希望
- ・展覧会開催のノウハウについて
- ・公募展の情報
- ・制作作品をメールなどで画像を送ってくる
- ・講師派遣について
- ・作品の検索（以前、テレビで見たフランスの障害者アート作家を調べてくれというものなど）



相談者の地域内訳（単位人）（重複は除く）

千葉市	市原市	東葛飾	葛南	印旛	香取	海匝	山武	君津	長生	夷隅	安房	他県	不明
3	0	1	1	9	0	0	0	0	0	1	0	0	2

*基本的に福祉事業所につなげる必要性のある案件はありませんでした。

■(株)いろだまとしてワークショップの実施に至った施設は2箇所ありました。

ひとつの例として

●電話相談にて

精神科病院より退院後、南房総方面に戻る患者の励みになるように、好きな手先を使う仕事ができる事業所がないかの質問をいただく。

→調査してみるも見つからず

→SNS にあげて情報収集。

→結果、昨年度より技術方面での相談を受けているかたから返答があり情報の交換ができた。

*南房総方面ではほぼ皆無に近いとの返答。

作品が増え更に発表を考え社会に出始めることが、障害のあるかたへの良き傾向となっている。

更にひきこもり、精神障害のかたにとっても窓口になり福祉の手立てのきっかけになるかたも見受けられる。

つまり、表現活動が「地域共生社会」のツールになる。

表現には沢山の答えがあり、誰もが認め合える関係の礎になるからともいえる。

オンライン相談会を10月31日、1月30日と2度行った。

■10月31日実施 参加者2名

技術取得を目的とした学校にお勤めの講師からの相談や新しい技術・視点を求める内容

■1月30日実施 参加者2名

長年精神障害のかたに絵手紙を指導しているかたと精神障害当事者の参加。
当事者のかたは第一回人材育成講座内アンケートで「絵が上手くなるには」とのご質問（ご相談）があり「毎日描くこと」と返答した。
そのことを受けて通所の事業所で「絵を描く人」と立ち位置が定まったことで通所の度に絵を描いており、幸福感に満ち満ちた日々を過ごしているとお話をいただいた。

千葉アール・ブリュットセンター **うみのもり** (2021.10.8)

つながるオンラインミーティング

 **のご案内** 

日頃より、当事業にご支援を賜り心よりお礼申し上げます。
さてこの度、うみのもりの事業にご参加いただいている皆さまとお会いする機会を作り、意見交換などを行いたいと思っております。

日時：10月31日(日) 14:00～(16:00終了予定)
開催方法：オンライン ZOOMにて行います。
事前にZOOMのインストールをお願いします。

ご参加をご希望の方は、以下URLよりお申し込みください。
<https://forms.gle/Uq9J1JofeFrM4nkj9>
開催1週間前を目途にZOOMのURLをお送りします。

みなさまのご参加をお待ちしています。今後とも、どうぞよろしくお願い致します。

つながるオンラインミーティングのご案内

初心者さん大歓迎 事業者さんも表現したい方も

アートの表現活動相談会

日 時：2022年1月30日(日) 13:30～(15:30終了予定)

開催方法：オンライン Zoomにて行います

ご参加をご希望の方は、申込みフォーム (<https://forms.gle/bmJofk8BPmmGznK39>) よりお申込みください。開催1週間前を目途にZoomのURL、ID、PWをお送りします。



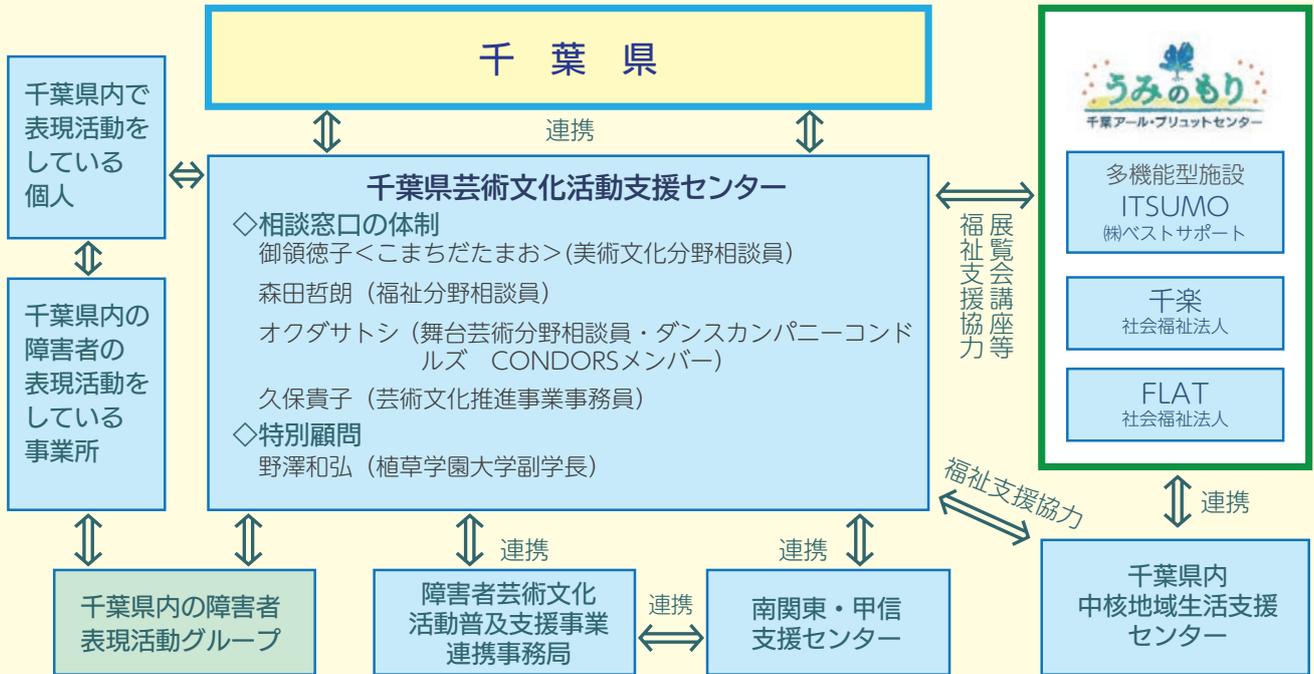
1/30 申込みフォーム

③ ネットワークづくり

二つのネットワークを考えています。
 その①表現活動のネットワーク
 その②アート×福祉のネットワーク



その① 表現活動のネットワーク体制図



- ◎作家（表現者）を中心として「支援者（指導者）」「事業所」「全国組織」をつなげる。
- 令和3年度の実績南関東ブロック展覧会
 - ・「ドキュメントとしての表現」に千葉県で表現活動をしている2名の作家さんを紹介した。
- ◎人材育成講座→表現者→表現の機会を作る技術を伝える→支援者の育成による表現の源を育てるすなわちネットワークづくりとなる。
- ◎人材育成講座・展覧会などの発表の機会の創出を元に表現者・鑑賞者（応援者）の双方からネットワークを築く。

その② アート×福祉のネットワーク

ネットワークの構築としてメーリングリストを作成し 郵送やメールで送付いただいた他県の活動（展覧会・公募展・講座）の情報をメールで伝えている。週1から2回程度。作家活動をしているかたを登録し 展覧会出展の依頼があった際に紹介する。などを実践している。

作家(表現者)を中心として福祉の「支援者」「事業所」をつなげる。

ネットワークの構築の上で相談を重ね、その表現者が生活基盤を整えるべき状況があった場合は、うみのもりの協力事業所及び中核地域生活支援センターによる支援体制を整えている。

④ 発表等の機会の創出（令和3年度の実績から）

「うみのもりの玉手箱」の実施

2022年3月15日～20日 千葉市民ギャラリー・いなげで実施

「大漁旗舞う！ 30点」「言葉舞う！ 20点」「身体舞う！ 2点」

- ・人材育成講座音楽部門分野成果作品1点・人材育成講座身体表現分野成果作品1点
- ・人材育成講座映像作品分野成果作品1点・会場風景動画1点

「よろこび！」をテーマに作成された作品が並んだ。

令和3年度 千葉県障害者芸術文化活動支援事業 うみのもり企画

発表等の機会の創出

2022年 **3月15日(火)～20日(日)**

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会場で開催できなかった場合は、オンラインで実施

千葉市民ギャラリー・いなげ
 千葉県千葉市稲毛区稲毛1-8-35 ☎043-248-8723
 初日15日(火)は13時から開場、最終日20日(日)は15時に閉場
 開館時間 9:00～17:15(入館は17:00まで)

※車いす・ベビーカー等でご来館の場合は、事前に直接会場にご連絡いただければ、段差のない業務用駐車スペースをご案内できますので、上記までご相談ください。なお、ギャラリー棟は2階建ですが、エレベーターがございません。誠に申し訳ございませんが、予めご了承ください。

うみのもりの玉手箱

大漁旗の作品
 身体表現の映像作品
 詩の作品

【よろこび！】をテーマに表現した
 公募作品の展示です

「うみのもり」舞台芸術分野相談員 野村 健夫
 (監修協力) 大漁旗の作品：こまちだ たまお / 身体表現の映像作品：オクダ サトシ / 詩の作品：大鳥 健夫

主催：千葉アール・ブリュットセンターうみのもり
 共催：千葉県
 後援：朝日新聞千葉総局 / 株式会社千葉日報社 / 産経新聞社千葉総局 / チバテレビ
 東京新聞千葉支局 / 毎日新聞千葉支局 / 読売新聞千葉支局

うみのもりSNS発表用ページ
 作品発表用 うみのもり Facebookページ
<https://www.facebook.com/uminomoriIR3akuhin/>
 応募していたいた、映像の作品と詩の作品は観覧会に先立って、うみのもりSNSで映像や画像で発表しています。

問合せ先 千葉アール・ブリュットセンター うみのもり
 〒299-4301 千葉県長生郡一宮町一宮2553-8 株式会社いるだま内
 TEL 0475-36-7411 FAX 0475-42-6138
 MAIL uminomorichiba@gmail.com WEB <https://uminomori.net>

ちばSDGs

WEB サイト FB ページ



共催／千葉県

後援／朝日新聞千葉総局 株式会社千葉日報 産経新聞社千葉総局 千葉テレビ
 東京新聞千葉支局 毎日新聞千葉支局 読売新聞千葉支局

- ・県民だより 1月号、3月号に情報掲載・千葉日報、東京新聞に情報記事掲載。
- ・3月18日千葉テレビニュースで放映 ※その後Yahoo! ニースでも取り上げられる。

「うみのもりの玉手箱」公募者の内訳

■大漁旗舞う！ 30点■

- 個人9点（内福祉事業所による紹介3点）
- グループ21点（内学校関係3点、病院関係1点、薬物依存回復施設1点）

■言葉舞う！ 20点■

- 個人20点（内福祉事業所による紹介2点）

■身体舞う！ 2点■

- グループ2点

地域別内訳

■大漁旗舞う！ 30点■

千葉市0点、市原市1点、東葛飾7点、葛南7点、印旛7点、香取0点
海匝0点、山武1点、君津0点、長生4点、夷隅2点、安房1点

■言葉舞う！ 20点■

千葉市4点、市原市1点、東葛飾2点、葛南5点、印旛1点、香取0点
海匝1点、山武0点、君津0点、長生1点、夷隅1点、安房1点、他県3点

■身体舞う！ 2点■

葛南2点

■□■作品参加地域■□■

千葉市4点、市原市2点、東葛飾9点、葛南12点、印旛8点、香取0点
海匝1点、山武1点、君津0点、長生5点、夷隅3点、安房2点、他県3点

「うみのもりの玉手箱」の振り返りとして

「大漁旗 舞う！」について

グループでの参加のなかには 大漁旗の概念に囚われてしまった作品も見受けられた。

この点からも指導者へ改革が必要と感じた。なお、大漁旗参加者には適宜の画材の使い方など前もって Youtube 動画限定公開にて学びの参考資料を作成した。（動画再生回数52回）

そこでも “大漁旗に固執しなくとも良い” “文字も入れなくても良い” と伝えたが結果、支援者の手が入り込みすぎている作品が見受けられた。

アール・ブリュットの概念は「美術教育の入っていない作品である」ということと何より手の入れすぎは作者への人権侵害になりかねない。至った起因はよく見せようという思いからだと考えられその点では全否定はできないし、誰もが了解の上で楽しんで制作しているならば拒否の対象にはなりにくい。バランスの難しさも感じた。

また、ゲームやアニメのキャラクターを描き入れたグループもあり、著作権侵害となりかねないことも考えられた。材料を送付したうえで取り組める無料の企画がゆえに始めて表現活動をした事業所も多くその点で感謝の言葉もいただいた。気軽な取り組み方だからこそ表現活動への導きが必要と感じた。ゆえに令和4年度は著作権についての動画（許可が得られるのなら）を参加希望者には見ていただくように促すことを考えたい。前もっての学びの動画にも改善点として伝えることを重要視したい。



「うみのもりの玉手箱」会場である千葉市民ギャラリー・いなげは神谷伝兵衛の別荘跡という歴史的建造物である。

ゆえに2階へのエレベーターなどがなく車椅子のかたは見学が難しいことと、コロナ禍で作者・関係者の来訪が難しいことが考えられることから搬入が終わった直後から撮影開始、動画制作で16日の展覧開始時間から上映できるように合同会社 Dropout に依頼し動画を作成した。

<https://youtu.be/P8tRT-Y2PDO>



令和3年度千葉県障害者芸術文化支援事業 うみのもりの玉手箱



←Youtube よりご覧いただけます。



～出品作品の中から～

重度の心身障害者で「うみのもりの玉手箱 言葉舞う！」出品の詩の中に

日頃、猫の作画をしており「猫のボランティア活動に流用をしたい」との希望が記されていたため猫の保護活動団体につなげた。その作者は支援学校を卒業してから病院と施設との行き来のみで、ほぼ自宅におり自分の身体に合わせて業者にカスタマイズしてもらったパソコンのみ（発語がない）で、福祉事業所スタッフとやりとりをしているとのこと。

作品を通じて社会との扉を少しでも開く可能性があるのではと思っている。

企画・主催：千葉アール・ブリュットセンターうみのもり 共催：千葉県
令和3年度 千葉県障害者芸術文化活動支援事業

2022年 **3月22日(火)～28日(月)**

そごう千葉店・地下1階ギャラリー
(本館とジュンヌ館をつなぐ連絡通路壁面)

開場時間 午前10時～午後8時 (28日の最終日は午後4時まで)

【よろこび！】をテーマに表現した公募作品の展示です
※3/15～20に千葉市民ギャラリー・いなげで開催しました展覧会「うみのもりの玉手箱」と同じ作品です
監修協力：「うみのもり」センター員・芸術文化相談員 こまちだ たまお

千葉アール・ブリュットセンター「うみのもり」は、千葉県障害者芸術文化活動支援事業の1つ「発表等の機会の創出」としてアール・ブリュットの作品発表の機会を設け、発表作品を募集いたしました。
この展示は、障害のある方々が制作した【よろこび！】をテーマに表現した「大漁旗」の作品を応募していただき、展示しています。
「うみのもり」はアール・ブリュットの表現活動の方法を提案します。今回の作品応募と発表が、障害のある方々の日々の豊かな余暇活動、表現を通じての社会参加、仕事の創出、支援をする方との大切な時間を作り上げることに、《つながる》芸術文化活動になることを願います。

アール・ブリュット (Art Brut) とは
フランス語で「生の芸術」という意味で、既存の美術教育の手あかが付いていない芸術作品を指します。フランスの画家ジャン・デュビュッフェ (Jean Dubuffet 1901-1985) が発案した言葉とされています。「加工されていない芸術」(伝説や流行などに左右されず、作者自身の内面から湧き上がる衝動のままに表現した芸術) など、さまざまな言葉で定義されています。

合同会社 千葉アール・ブリュットセンター うみのもり
〒299-4301 千葉県長生郡一宮町一宮2553-8 株式会社いのだ家内
TEL: 0475-36-7411 FAX: 0475-42-6138
MAIL: uminomorichiba@gmail.com WEB: <https://uminomorier.net>

WEB サイト FB ページ

「大漁旗 舞う！」の作品展示

2022年3月22日～28日
そごう千葉店
地下通路ギャラリーにて実施

ワークショップや展示の企画などで株式会社いのだ家と取引のあるそごう千葉店よりお声がけいただきタイミングよく展示が可能となった。不特定多数のかたに参加者の作品と障害者芸術文化支援事業について周知の機会の可能性があると考えます。

「うみのもりの玉手箱」作品に対して監修者を設定

うみのもりの玉手箱 監修について

令和3年度の発表の機会の創出【うみのもりの玉手箱】では大漁旗（美術）詩（文学）映像（身体表現）の3つの部門での公募を行った公募を行うにあたって

- ・賞などを決めない
- ・誰もが参加しやすく発表できることを目指した。
- ・モラルに反する表現があった場合に備える。

その上で 作品を発表したことが次の制作の発展となるようにそれぞれの分野に関わる専門家を監修者として配置しコメントも同時に発表するようにした。



大漁旗舞う！「美術文化相談員 こまちだたまお」、言葉舞う！「詩人 大島健夫氏」、身体舞う！「舞台表現相談員 オクダサトシ氏」がそれぞれに担った。



<言葉 舞う！ 詩（文学）>

大島健夫氏

千葉県千葉市生 早稲田大学法学部卒業 詩人 ポエトリースラムジャパン優勝
パリ、ベルギー等での世界大会出場 著書「身近な生物のきもち」2022 メイツ出版
「希少生物のきもち」2021 メイツ出版 「外来生物のきもち」2020 メイツ出版



<身体 舞う！ 映像（身体表現）>

オクダサトシ氏

（ダンスカンパニー「コンドルズ」メンバー 千葉県在住）専門学校・大学などで
ワークショップ経験がある。

*うみのもり舞台芸術分野相談員



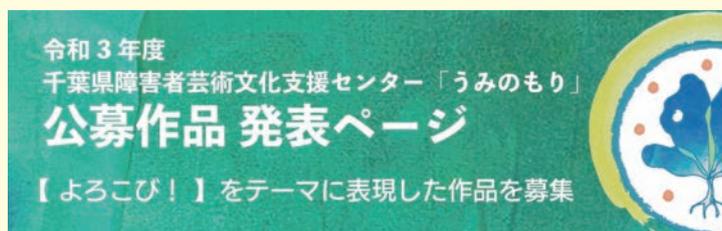
<大漁旗 舞う！（美術）>

こまちだたまお

東京藝術大学美術学部修士課程修了

千葉アール・ブリュットセンターうみのもりセンター長

株式会社いろだま代表取締役



「うみのもりの玉手箱」作品に関しては、作品発表用Facebookページを作成し公開している。

【令和3年度 公募チラシ】

主催 千葉アール・ブリュットセンター「うみのもり」 / 共催 千葉県

千葉県障害者芸術文化活動支援事業【発表等の機会の創出】のご案内

作品を制作・発表してみませんか！

① 展覧会発表用

2022年3月15日⑩～20日⑩
千葉市民ギャラリー・いなげ 開催
展覧会『うみのもりの玉手箱』

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、
会場で開催できなかった場合は、オンラインで実施。

② うみのもりSNS発表用

作品発表用FaceBookページ
<https://www.facebook.com/uminomoriR3sakuhi/>



応募していただいた、映像の作品と詩の作品は展覧会に先立って、
うみのもりSNSで映像や画像で発表。

アール・ブリュットの作品募集

【よろこび！】をテーマに表現した作品

大漁旗の作品

【美術表現分野】

『大漁旗 舞う』

～いろであらわす いろをあらわす～

監修協力：こまちだ たまお
「うみのもり」センター長 芸術文化相談員



身体表現の 映像作品

【身体表現分野】

『身体 舞う』

～からだであらわす なにかをあらわす～

監修協力：オクダ サトシ
「うみのもり」舞台芸術分野相談員



詩の作品

【文芸表現分野】

『言葉 舞う』

～ことばであらわす ことばをあらわす～

監修協力：大島 健夫
詩人



参加申込み期間

2021年10月1日～
2021年10月31日

申込み多数の場合は
抽選になります。

作品募集期間

2021年11月1日～
2022年1月31日 必着

発表してみたい方は、まずは参加申込み。

YouTubeへ投稿して
応募できます。

参加申込み・作品募集期間

2021年8月16日～2022年1月31日 必着

〈テキスト作品〉か
〈手書き作品〉で
応募できます。

詳しい募集内容については、各分野の〈応募要項〉〈参加規約〉をご確認ください。

参加申込みフォーム <https://forms.gle/iTqTe56kxLwwhr3a8>



千葉アール・ブリュットセンター「うみのもり」は、千葉県障害者芸術文化活動支援事業の1つ【発表等の機会の創出】としてアール・ブリュットの作品発表の機会を設け、発表作品を募集いたします。

「うみのもり」はアール・ブリュットの表現活動の方法を提案します。今回の作品応募が、障害のある方の日々の豊かな余暇活動、表現を通じての社会参加、仕事の創出、支援をする方との大切な時間を作り上げることに、《つながる》芸術文化活動になることを願います。みなさまの作品のご応募をお待ちしております。

アール・ブリュット (Art Brut) とは

フランス語で「生(き)の芸術」という意味で、既存の美術教育の手あかが付いていない芸術作品を指します。フランスの画家ジャン・デュビュッフェ (Jean Dubuffet 1901-1985) が発案した言葉とされています。

「加工されていない芸術」「伝統や流行などに左右されず、作者自身の内側から湧き上がる衝動のままに表現した芸術」など、さまざまな言葉で定義されています。

千葉アール・ブリュットセンター うみのもり

〒299-4301 千葉県長生郡一宮町一宮2553-8 株式会社いろだま内 TEL 0475-36-7411 FAX 0475-42-6138

MAIL uminomorichiba@gmail.com WEB <https://uminomori.net> 受付時間 月～金曜日・10時～17時

最新の〈応募要項〉〈参加規約〉情報は、WEBサイトで案内しております。



WEB サイト

大漁旗舞う！



大漁旗舞う！ 総括 こまちだたまお

今回、30点に及ぶ作品が届きましたこと感謝申し上げます。
はじめての取り組みのかたや、すでに発表を重ねておられるかたもご参加いただけ豊かな表現が広がったと思っております。
これを機に更なる表現の喜びと機会が増えますこと心より願っております。



身体舞う！



身体舞う！ 総括 オクダサトシさんより

映像（身体表現）の公募について
 僕自身、映像も身体表現も別にすごいこと、特別なことをしなくても
 良いと思っています。等身大で自分が面白いナアと思ったことでは
 ないです。
 今回は初々しい映像作品が集まり、カラダの動きもドキドキワクワク。
 最後はゲラゲラ笑って終了。
 うん。
 それでいいのだ。

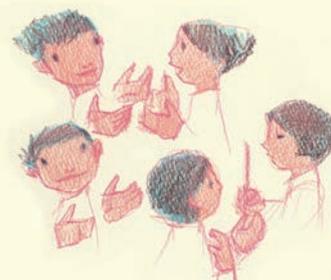


言葉舞う！



言葉舞う！ 総括 大島健夫さんより

今回、皆様からの応募作品の数々に触れ、その清新さ、情熱、豊かな想像力、小さなものへの愛情、湧き上がるエネルギーを肌で感じ、詩の本質、芸術の本質とは何かということに思いを致しました。監修をさせて頂けたことは、かけがえない最高の体験でした。また皆様の詩と出会う機会を心待ちにしております。



⑤ 情報収集・発信

うみのもりWebサイトや
Facebookページ・Instagram・TwitterなどのSNSを活用して発信。



<令和3年度の運営から見えてきたこと>

- ・人材育成講座、展覧会の参加者、相談、メーリングリストともに市原、香取、海匝、君津、安房、（野田も）方面の参加者が少ない。
 - ・千葉県が公表している福祉事業所のリストを元に講座などのフライヤー送付を送っているが反応が少ない。
- 興味を持っていただけるような企画の実施や新たな発信方法の模索が必要である。
また、南房方面は郵送後の宛先不明返却も多い、つまり閉鎖している事業所も多い。
現状を知りたい。

<令和4年度の情報発信計画>

◎情報発信の手段として本年度も【ちば県民だより】の活用を提案

相談業務窓口案内、作品公募展示企画、人材育成講座、作品の発表などを定期的に掲載することで県民への周知を図る。

【ちば県民だより】は行政・福祉・教育関係のかたの読者数が多いことも提案理由。

◎更に【千葉テレビ】【千葉日報】などマスコミ各社への広報依頼をし、作品の発表の機会の創出につながる情報発信もできると考えられる。

全国の各センターとの連携、郵送での情報をメーリングリストに繋げることも視野を広げるきっかけとなる。

千葉アール・ブリュットセンター うみのもり

〒299-4301 千葉県長生郡一宮町一宮2553-8 株式会社いろだま内

TEL 0475-36-7411 FAX 0475-42-6138

MAIL info@uminomori.net WEB <https://uminomori.net>



WEB サイト



FaceBookページ



twitter



instagram



令和3年度 作品発表用
FaceBookページ

令和3年度

展覧会『うみのもりの玉手箱』

(2022年3月15日◎ ~ 20日◎千葉市民ギャラリー・いなげ 開催)

応募していただいた作品を発表しています。



「ご案内」送付受付
フォーム

※令和3年度に送付した方には、
引き続き送付いたします。



相談フォーム



うみのもり Facebook ページ
作品公開エントリー

⑥ 今後の展望

本事業より得られた成果および今後の成果の活用方法

コロナ禍の折り、コロナ対策で翻弄する福祉施設、内在化しがちになった障害のある当事者の現状にあって、直接会って講義をする、相談を受けること、現場の見学、美術館・コンサート等の鑑賞活動の実施が更に難しい1年だった。特に表現活動は技術を伝え高めていく分野だけに同じ空間を共有できないことに難しさを感じた。それでも表現活動を止めないには、と創意工夫の日々であった。

かたや事業所での外出などのレクリエーションが実施できなくなったことでアート等の表現活動を取り入れようとする施設も出てきた背景もあり、はじめて表現に取り組む施設にも取り組みやすい内容の公募展にし作品を募集した。作品となる材料の受け渡しがしやすく、作品をその後事業所等で展示しやすい「大漁旗」*千葉の歴史文化もふまえた*にし、言葉（詩）、映像（身体）表現など室内と事業所単位での製作ができるものを考え実施した。

初めて表現活動に取り組めて良かった、書きためていた詩を初めて発表できて良かったとの声もあるものの、長年表現活動を続けている施設の参加が少なかったことが甚だ残念であり、直接の声がけなど努力が足りなかったと実感している。

教育関係との関わり

障害者芸術文化活動を普及させていくために千葉県の支援学校での芸術教科の実施状況を把握すること。昨年度も参加があったが支援級の児童への芸術文化活動の場を創出すること。また、生涯学習との連携を考える機会を創出すること等を視野に入れた活動を進め、障害者芸術文化活動の基盤を作るきっかけを思慮します。

千葉県全域での障害者芸術文化活動の普及

昨年度の参加者の地域別状況を反映し、参加者の少ない地域での展示会の実施などを行うことで千葉県全域での活性化を促します。



評議員より



評議員 西村陽平先生
日本女子大学名誉教授

千葉県においては、支援センターが2019年度から設置されましたが、受託団体が毎年変わっているため経験値が生かされていないように思われます。そのため、まだ千葉県の現状と課題が明確になっていないようです。実績や経験値の豊富な団体の知恵や経験から学ぶことが必要です。南関東・甲信を担当している広域ブロックの「社会福祉法人みぬま社会」を現地訪問してはいかがでしょうか。

千葉県全域は広くて大変ですが、個人制作者、団体等を調査して収集した作品や作家の情報から展覧会を企画することにより、千葉県の現状とともに、日本における千葉県の位置を知ることができます。

今年度もコロナの影響で進んでいないと思いますが、千葉県の所轄課との連携も大切です。行政との協働も課題の一つです。

芸術における鑑賞は、すべての人に開かれているはずですが、障がいを持っている人にとっても基本的な事柄です。一つ一つ実現するように計画してください。



評議員 花澤洋太先生
東京学芸大学 教職大学院 教育実践創生講座教科領域指導プログラム美術・工芸教育サブプログラム教授

千葉県障害者芸術文化支援センターうみのもり活動所見

本事業は代表、こまちだたまお(御領徳子)氏の美術家で美術指導者の視点、経験と情熱、コミュニケーション力をもって特別支援学校、障害者施設で造形活動等の指導を行い、作品展示や交流を通して多くの団体、個人のネットワークを形成した。今年度も昨年度から続くコロナ禍の制限された環境であったがWeb、SNSを有効に活用した情報発信、リモート講習、公募展示など多くの工夫を行い活動が展開され美術を中心とした多様な創作活動は参加者に新たな興味を与える機会を創出した。また表現活動には身体表現、音楽、詩、など多彩な運営スタッフ、アドバイザーの多視点な関わりは表現活動の幅を広め交響的な活動となった。現在、インクルーシブ教育システムの構築や、障害を持つ子どもを巻き込んだ学習・文化活動の必要は以前から指摘されているものの、その取り組みは十分とはいえない。本事業は表現活動に加え展示、発表を行うことで地域の方々、障害をもつ子どもと、もたない子どもとの交流の場となり美術、インクルーシブ教育を通じた共生社会に向けた障害者の芸術文化活動のモデルを提示している。

発行日：2022年3月

企画・編集・発行：株式会社いろだま

発行責任者：こまちだ たまお（株式会社いろだま代表）

デザイン・印刷：デザインワークス

会場・作品撮影 竹村浩輝

千葉県障害者芸術文化活動支援センター
千葉アール・ブリュットセンターうみのもり

〒299-4301

千葉県長生郡一宮町一宮2553-8(株式会社いろだま内)

TEL:0475-36-7411 FAX:0475-42-6138

MAIL:info@uminomori.net

HP:https://uminomori.net

本書は千葉県「令和3年度千葉県障害者芸術文化支援事業」の一環として製作しました。

